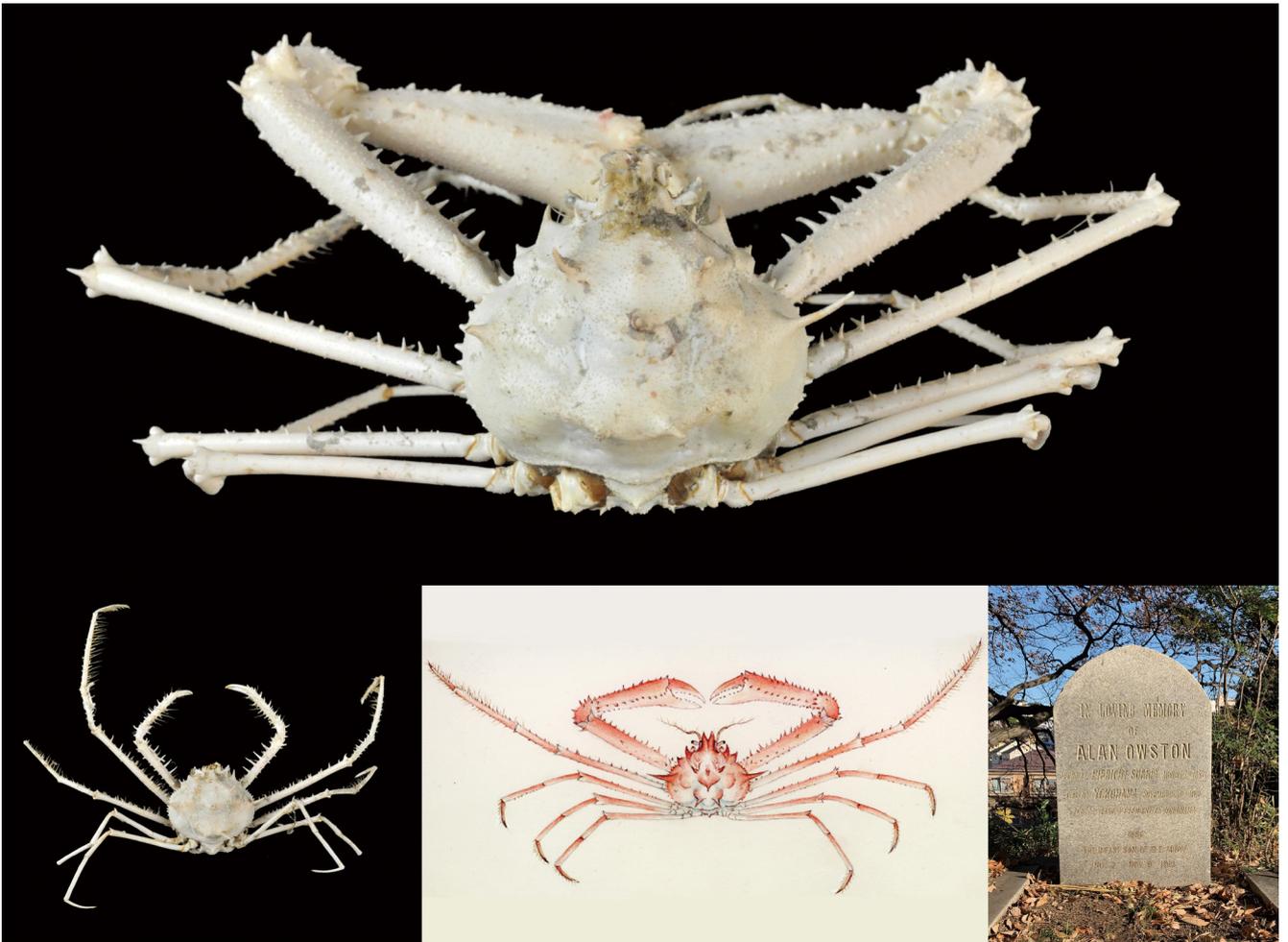


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 25, No. 1 神奈川県立生命の星・地球博物館 Mar. 2019



オーソンガニ

Cyrtomaia owstoni Terazaki, 1903

上 : オスの標本(KPM-NH0162877)
左下: メスの標本(KPM-NH0162884)
中下: 酒井恒細密画コレクションに含まれる細密画(KPM-NV0000159, 酒井恒画・酒井茂子 彩色)
右下: アラン・オーソンの墓所(横浜市 中区仲尾台・根岸外国人墓地)

さとう たけひろ
佐藤 武宏(学芸員)

流行というものが人の興味関心にもあるのか、2018年にはオーソンガニやオーソンフクロウニに関する質問を実に多く受けました。何かの折りにこれらの生きものがメディアに取り上げられ、その名を人びとが無意識に記憶したのでしょうか。

オーソンガニの名は、明治時代の貿易商で横浜ヨットクラブの設立者の一人、アラン・オーソン(1853-1915)に由来します。オーソンは日本の生きものを外国の顧客向けに販売するとともに、研究への提供もしていました。当時の研究者はオーソンの貢献に対し、「献名」という

かたちで感謝の意を示したのでしょうか。オーソンの名を学名や標準和名に持つ種は、様々な分類群に見られます。

1903年、寺崎留吉(1871-1945)は相模湾産の標本に基づき、オーソンガニを新種として報告しました。甲長2cm程の小さなカニですが、記念すべき日本人による最初のカニの命名です。しかし、寺崎はその後には植物学に進み、「日本植物図譜」などの数々の植物細密画を残しました。

数々の日本の生きものを世界に紹介し、日本の海を愛したオーソンは、日本でこの世を去り、今も横浜に眠ります。